

# 2016年度 学校評価総括

関西創価高等学校

【教育基本目標】

基本方針	〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践 〔Ⅱ〕「可能性」と「心」の育成の推進
学校運営	文科省SGH（スーパーグローバルハイスクール）校として取り組む5年間のうち2年目に入る本年は、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」を構築してまいりたい。 同時に、その主体者たる生徒自身の限りない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育んでいく。 以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。 また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、以下の目標を達成していく。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	達成度評価	評価平均値	学校関係者評価	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動・実践における重点項目	〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	1. スーパーグローバルハイスクールの研究開発構想の着実な実施	GRITの実施・さらなる充実 UPクラス・グローバル・シズンシップ・セミナーの開催 ラーニング・クラスターの充実・発展 各種SGHフィールドワークの実施 各教科によるアクティブ・ラーニング型授業の導入	A	3.6	・子どもが楽しく充実した学校に行かせてもらえることに感謝。 ・学べること、池田先生の学校に行かせてもらえること、勉強ができることが何よりすばらしい。 ・学園のすばらしさに感動。交野は世界に羽ばたく人材の育成をしていると自負できる。 ・年々、発展している様子がうれしい。 ・SGHとして2年が経過した。この間の取り組みは本当に素晴らしいものであった。学校が大きく変わったという印象がある。 ・年々、学園の教育が充実してきていることを感じる。恵まれた環境だ。 ・UPで高度な学問の内容に触れることができ、学園生の学問に対する意識が高まっている。 ・英検受検の補助を行ったことにより、受検者数が増加。上級レベルの合格者も増え、SGH効果の高まりを感じる。	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・シズンシップ・セミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まった。 文部科学省の中間評価でも高い評価を受けることができた →研究を重ね、来年度もさらなる拡充を目指す。 アクティブラーニング導入の意識は大いに高まり、昨年以上に授業への導入が進んだ。研修会を実施し、教員の意識の啓発を図った。 →校内研修の充実。校外での勉強会にも積極的に教員を派遣。さらに高いレベルを目指す。
		2. アクティブラーニングが授業の中に取り込まれている授業数の推進	全教員を対象にしたのアクティブ・ラーニング研修を実施 授業・GRITにおけるアクティブ・ラーニングの導入と実践	A	3.3	・クラブとSP・UPの両立が難しい。 ・SGHの波に乗れない生徒がいる。協働学習を苦手とする生徒もいるので、対処が必要。 ・アメリカ創価大学（SUU）への進学をはじめ、海外の大学への進学を希望する生徒が現れ、SGHの取り組みの成果が形となっているように感じる。さらに「世界」を目指す生徒を育成したい。 ・創価大学以外の大学とも連携を模索すること。	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・シズンシップ・セミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まった。 →教員自身の研鑽を継続。さらに視野を広げ、これまでにない分野にも目を向けたい。
		3. 探究型総合学習GRITがよかったと述べる生徒の数の増進	校内の環境フィールドワーク 虫の学習／アースカムプロジェクト体験 貿易ゲーム 持続可能な開発目標（SDGs）学習 人権学習／世界人権宣言学習 核軍縮交渉シミュレーション グループでのまとめ・プレゼンテーション	A	3.5	大学説明会・アドバイザー・グローバル・キャンプやSUA首脳との懇談会、SUA留学生との交流等、大学に対する関心を深める機会を多くもつことができた。 UPの実施により、大学レベルの学問に対する関心を高めることができた。 大学院生の助言・指導により、生徒のプレゼンテーション技術が大いに向上した。 →生徒からの要望も取り入れるなど、工夫を重ねる一方、さらに高いレベルのものに触れさせたい。	
		4. 大学との連携の強化。学校教育に参画した大学教員、ならびに大学院生の数の増加	創大・創短大説明会（1年次・3年次）、GCP説明会の実施 創大研修（2年次）の実施 UPクラスの実施 SUA首脳との懇談会・SUA学生（本校卒業生）との懇談会の実施 GRITプレゼンテーションの準備に大学院生より助言・指導	A	3.4	グローバル・キャンプやSUA首脳との懇談会、SUA留学生との交流等、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。 英語検定試験受検への補助によって受検者が増加した。これに伴い、英検合格者数も飛躍的に増加し、高校3年卒業時に学年の60%が英検2級レベルの力をつける目標は、ほぼ達成できた。 ※TOEICでのスコアも含む。 第2回海外フィールドワークにより、さらに語学に対する関心が高まった。 →授業の充実とともに対策講座の継続。各級の合格者を増やす努力をさらに重ねる。	
		5. 英語力の強化と英検受検の成績向上	TOEIC講座の充実 検定試験受検補助 創大留学生を招いてのグローバル・キャンプの実施 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 SGH海外フィールドワークを実施	A	3.6	SGHの取り組みから、環境への意識は高まっている。各種保存会の活動も活発。課題は、日常生活をはじめとする身近なところに目を向けた、地道な活動の展開。 →これまでの取り組みが日常の活動として定着すること。地元への還元を目指す。	
		6. 環境教育（アースカム・虫などの保存運動）の充実と発展	校内の環境フィールドワークを実施 アースカムプロジェクトの継続とGRITにおける全校生徒のアースカム体験の実施 虫・蓮・桜・竹林・鯉などの保存会活動の実践	C	2.9	グローバル・シズンシップ・セミナーの実施 ラーニング・クラスターメンバーへのワークショップの実施 アドバンスト・サイエンス・セミナー等、高大連携プログラムの実施 弁護士による人権講座を実施	グローバル・シズンシップ・セミナー、UP等の実施で目標はほぼ達成しているが、まだまだ拡充の余地あり。 →視野を広げ、よりレベルの高いものを目指したい。
		7. 学識者を招き、講演会を実施（Global Citizenship Seminar）。事前学習を含めた充実度の増進	情報リテラシー教育の実施 教師・生徒のIpad活用の実施と促進 先行して高校2年生全員にタブレットを貸与	A	3.6	ICT委員会を設置し、ICT導入について積極的に検討。3学期より2年生全員にタブレットを貸与。一人一台のタブレットを先行実施することができた。 →タブレットを活用した授業の展開。授業に役立つアプリの活用・研究。家庭学習への活用。使用上のマナーの徹底。	
		8. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現	主権者教育LHRの実施 教員対象の主権者教育研修の実施	B	3	主権者教育LHRにて、主権者としての意識の啓発を行った。事前に教員で研修を行い、18歳選挙制度をはじめ、主権者教育の基本を確認した。 →実施回数の増加、質の向上を目指す。	
		9. 主権者教育の推進					

教育活動・実践における重点項目	〔2〕「可能性」の育成のために	1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。	SPのBasicコース開講 各教科における日常的な問題集の活用 スタディサプリの導入 家庭で視聴可能に	B	2.6	・生徒主導、自発的、能動的、まさに生徒が作っている学校というイメージがある。自由な発想、思いがすばらしい。大人が遅れないようにしないといけない。生徒がよい。その生徒のいいところをどんどん引き出して欲しい。生徒がかわいい。生徒には無限の可能性が有る。	英語科・数学科をはじめとする教科できめ細かい指導を行っている成果が徐々に出てきている。放課後のSPをきっかけに家庭での学習に取り組む生徒が増えてきた。まだまだ努力が必要だが、スタディサプリの導入により、タブレットを活用した反転学習が可能な環境になった。 →スタディサプリの活用。 反転学習の具体的な実践。
		2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進	SPクラス (Advanced Math・Basic Math) の実施 SPクラス (Advanced English・SUA English) の実施 ラーニングクラスターの充実・SGH海外フィールドワークの実施	C	2.9		放課後に実施したSPクラス (生徒のニーズに応じた講座) で学力とともに進学実績も向上した。 UPクラスを開講したことで、大学レベルの学問にふれ、学習に対する意識が大いに向上した。 →放課後に実施することで、リーダー育成講座をはじめとする諸行事と重なり、生徒の活動に影響が出ている。 新カリキュラムの編成とも関わる問題。講座と放課後の諸活動の整理をしたい。 参加者数の増加が課題。
		3. SGH国内、国外フィールドワークを目指す生徒数の増進	フィールドワークの報告、啓蒙の充実 フィールドワークの内容充実	B	3.1	国立大学へもっと行って欲しい。特に理系の分野に。東大・京大にもっと送って欲しい。本校の上位者の層がまだ薄い。学力上位者層を厚くすることが大事。 国公立大学や他大学へも進める流れを。創大以外の進学者を増やして欲しい。 創大の定員も減少傾向に。進学先確保のためにも他大学への進学を増やす。海外大学の進学者を30名までに増やす。国公立大学へも30名を目指すべきだ。	始業式・終業式での各フィールドワーク報告に加え、渡り廊下での展示やGRITを通してのアピールで、フィールドワークに対する関心を高めることができた。 →さらに内容を充実させ、魅力を発信したい。
		4. スタディサポートテストを活用し、成績アップさせた生徒の増進	春休みの課題としてスタディサポートの問題集を活用 (1・2年次) 1年次から2年次の夏まで、4回のスタディサポートテストを実施 2年次夏と冬に創大推薦模擬試験を実施	B	2.6		スタディサポート (ベネッセ) の実施により、学力と学習習慣両面からの把握が可能となり、より効果的な学習指導ができた。実際にテストの点数・学習時間ともに増えている傾向。 →来年度からは、スタディサポートからスタディサプリアへ変更する予定。よりきめ細かい指導・アドバイスができると期待。
		5. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進	キャリアガイダンスの実施 (1・2年次) 適職適学ナビの実施 (1年次) 創大研修での講義受講 (2年次) 弁護士による人権講座を実施	A	2.8		今年度は、創価大学研修でのキャリアデザイン講座を2年生が受講したことに加え、創価大学キャリアセンターより羽賀文湖さんを学校にお招きし、全学年対象のキャリアデザインの講座を開催することができた。その際、羽賀さんにキャリアデザイン・アドバイザー就任を依頼することができ、今後、計画的にキャリア教育に取り組んでいく目処が立った。 →志望校・志望学部を選択や将来の職業選択がより具体化するよう、努力を続けたい。
		6. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進	朝読書の実施と充実 「図書館に行こうDay」を毎月開催 「Book-Navi Day」での教員からの良書推進 ビブリオバトルによる生徒参加型の読書推進の実施 各種読書コンクールへの応募推進	C	2.5		「Book-Navi Day」で教員が推薦図書の紹介をしていることや図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。ビブリオバトルなど新しい生徒主体の読書推進活動も定着。 読書感想文コンクールをはじめ、各種コンクールで多数の入賞者を出すことができた。 →成果も多いが、良書に親しむ生徒の率がまだまだ低いと感じる。しっかりとデータ収集に努め、具体的な対策を立てたい。
	〔3〕「心」の育成のために 1. 創立精神学習の深化と実践	a. 三大大行事・創大研修・教育研修旅行・青春対話 (総合学習GRIT) を充実	担当管理職と教員実行委員長による実行委員会への指導性発揮 月2回の土曜日に「青春対話」を学習、3学期にプレゼン発表 高2創価大学研修における創立精神の深化	B	3.2		土曜日 (月2回) の総合的な学習の時間に実施している「青春対話」の学習や諸行事を通して創立精神の深化を図ることができた。 →創立者の著作を読破する運動等、さらなる充実を図りたい。
		b. 教員自身が創立精神を学び、体現し、生徒の創立精神を薫発するための研究	月に1回リーダー育成講座の実施 三大大行事の取り組みの中で「創立者とともに」を活用	C	2.9	・リーダー育成講座に関して。早い目に情報をもらえれば、事務局も若い職員を参加させたい。 ・創立者に直接お会いした経験のない職員にぜひ学ばせたい。	月に1回のリーダー育成講座を通して、教員も生徒も創立精神を深めることができた。 →草創期のことを知らない若い教員の人数が増えているため、アーカイブによる映像を通じた研修を行う必要性がある。
		c. 創立者指導等アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催	アーカイブ座談会の開催 アーカイブ映像を活用したリーダー育成講座・創立精神学習の実施 三大大行事の取り組みの中で「創立者とともに」を活用	C	3.1		
	〔3〕「心」の育成のために 2. 「多様性」の尊重と「共感力」の	a. 「多様性」の尊重を培い、「人権教育」「平和教育」を推進するプログラム	GRITにおける人権学習プログラムの実施 GRITにおける平和学習プログラムの実施	C	3.1		GRITにおける人権学習・平和学習プログラムを通して、多様な考え方を認識するとともに、人間としてあるべき姿や平和の尊さを学ぶことができた。一方、理念や思想を学ぶ機会が多かったが、身近なところでの実践が課題。 →人権教育・平和教育・いじめ防止プログラムなどをスケジュール化し、より計画的に学習できるように工夫をしたい。
		b. 「いじめ防止プログラム」の研究と実践。対応力の強化のための研修開催	いじめ防止基本方針の策定 GRITにおける人権学習プログラムの実施 保護者相談室の設置	C	2.8		
		c. 男女の特性に応じた、きめ細やかな指導の実施 (特に女子教育) 男女別集会の開催	月に1回「幸福の乙女」学習会を実施 男女別集会の実施 (適宜) 生活組織別集会の実施	C	2.8	2月に幸福の乙女の集いを開催。すばらしい体験発表があった。地域の皆さんが学園進学を助めてくれて、学園にきた生徒。それがきっかけとなって一家の苦境を変えることができた。	女子に対する指導は充実してきている。 男子に対しては手が入っていない。 →男女別の指導会企画・実施。

お教育活動重点・実践に	〔3〕「心」の育成のために 2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養	d. 「天の川ホテル復活プロジェクト」を通しての地域貢献と自然との共生を学習を実施	GRITで蜚復活の取り組みを学習 交野の各地での蜚復活に大きく貢献	C	2.5		SGHの取り組みから、環境への意識は高まっている。各種保存会の活動も活発。課題は、これらの取り組みが校内に留まっていること。 →これまでの取り組みが校外での運動等に発展することを旨とする。
教育力向上のための取り組み	1. 授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進		1・2学期に授業公開週間を設ける。各学期に保護者対象の授業参観を実施。	C	3	いい生徒が集まっている。さらに伸ばす努力をすべきだ。また、生徒のやる気に応える教員であって欲しい。授業力アップのためにもオープンクラスウィークを充実させること。上位層をターゲットに授業レベルを上げる。放課後も学校に残って自習させる工夫をすること。ラーニングコモンズなど、自習ができる場所を設けるべきだ。また、その自習を評価してあげることが大事だ。コンピテンシーの高さを評価する入試にする。やる気のある生徒がチャンスを得ることができ環境に。生徒個人の内発からの成長を目指すこと。そのような授業を展開して欲しい。	毎年、全教員が目標・取り組みなどのシラバスを作成し、年間計画を立て、授業力アップに取り組んできた。6月、11月に授業公開週間を設け、全校で授業公開と授業参観に取り組んだ。各教科において授業公開の年間計画を立て、全員が一年に一回は授業公開をできるように取り組んでいる。学期に1回(年に3回)、保護者対象の授業公開を行い、アンケート記入をしていただき、各教員にフィードバックしている。
	2. 高大連携しての教員研修の強化		校内研修の実施。外部研修への参加を奨励。	B	2.8		全教員参加のアクティブラーニング研修を実施。創価大学の関田教授からのアドバイスもあり、次の課題を見据えての取り組みが進行中。
	3. 生徒対応や教育力向上のための時間を確保するための校務改革を検討		会議の時間短縮、業務の簡略化。	B	2.6		校務改革の討議が進み、2015年度からペーパーレスの日程確認が可能となり、中高別職員会議の充実が図られることになった。
	4. 生徒による授業評価の実施		2学期に授業アンケートを実施し、授業改善に取り組む。	C	2.9		生徒への授業アンケートを実施し、課題を見つけて次年度への取り組みに活かしている。ただし個人としての反省材料にはなるが、全体としてのデータ分析による活用が不十分。
	5. 保護者と協力してのトータルした人材育成		a. 保護者への進路ガイダンス、思春期の関わり方などのセミナーの実施 b. 保護者との連携強化(家庭訪問の励行、HP保護者用パネルの充実) 満足度の増進。	C	2.7		4月末の保護者会で実施。まだまだ改善の余地あり。 1年生を中心に家庭訪問実施。特に不登校生徒宅への訪問には力を入れた。 →課題の明確化と改善の取り組み。各種取り組みの記録を残す。
安全・安心／施設／設備の充実について	1. 事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)		登下校安全協議会を開催。	C	2.8	・通学路に危険な箇所がある。車の飛び出しが気になる。無事故を祈る。通学路の安全確保をお願いしたい。 ・通学時間帯、道に広がる時期もあった。最近では相当よくなった。小学生と登校時間がぶつかることが気になる。道路に出ている木の剪定をお願いしたい。道路上でふざげながら登下校する生徒がいる。危険なので注意。 ・登下校に関して。生徒が主体的に登下校の整理に取り組んでいる。これがよかった主な理由だと思う。大変効果があった。 ・学園生は、忙しい。帰りが遅くなるため、お腹をすかせている。万葉コープの営業時間が、高校生の下校時間に合わない。今後検討が必要。	通学路の安全対策として警備員の配置を実施している。登下校安全協議会を通して、迅速に安全対策を講じる体制を確立。安全ステーションの活用。
	2. 交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化		外部講師を招いて、各種講習を行う。	C	2.7		交通安全講習、ネット安全セミナー、熱中症予防セミナー、薬物乱用防止セミナー、AED講習などを実施し、生徒の意識向上をはかることができた。
	3. 防災教育の推進と震災対応力の強化		防災訓練の実施。	C	2.8		防災訓練(火災・地震対応)の実施と災害時用備蓄品の完備を推進することができた。
	4. 障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善		本年度は設置できず。	C	2.5		一校舎の段差解消には、まだ至っていない。校舎の改修・建て替えの計画ができるまでは応急処置で対応。
	5. 生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化		a. 教員間の情報共有(ケースカンファレンス等)の開催 b. ケーススタディの適切な開催。	C	2.8	今年より開教諭に支援教育コーディネーターをお願いしている。スタディサブリの導入も、自学自習の一助になる。新たな取り組みが、不登校生対応にもつながっている。	生徒にとって特別なケアが必要な場合には、随時ケースカンファレンスを実施し、情報共有をしながら指導を進めることができた。
その他	1. 特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)		活動実績を評価する。(野球・陸上長距離)両クラブとも大会で優秀な成績を残した。	B	3.3	・野球部の活躍、大変にうれしい。その上で、身体作り力を入れたら欲しい。他校生に比べると小さいと感じる。寮の食事をさらに充実させて欲しい。 ・創価学園創立50周年の佳節。甲子園・都大路へぜひ行って欲しい。 ・優秀な選手を獲得するシステム・ネットワークを構築すべきだ。甲子園常連校になること。成果を出すことで宣伝にもつながる。 ・発信をもっとすべきではないか。各区長さんにアピールを。音楽祭に地元の方を招待してはどうか?また、学園友好の集いや桜まつり・オープンキャンパスにも。ぜひ、宣伝を。 ・3月29日に桜まつり友好交歓会を開催。学園の取り組みを地元へアピールする機会となった。	一般入試で活動実績区分を設け、運動能力に優れた生徒を選抜できるようにした。
	2. 広報活動および受験啓蒙の強化		オープンキャンパス・入試説明会を実施。各地での創価教育ガイダンスの開催。	C	2.7		アンケートをもとに受験生家庭にオープンキャンパスの案内等激励のガキを送付した。 →オープンキャンパスや入試説明会への参加者を増やす努力をする。
	3. 学校評価の充実		全教員による学校評価を実施。	C	2.8		今年度も全教員による学校評価(4段階評価)をもとに、教員による自己評価委員会を開催。振り返りがより充実した。 →学校評価のPDCAサイクルを確立させ、学校の発展にさらに活用していきたい。そのためにも目標の設定に工夫が必要と感じる。
	4. 寮・下宿生のサポート体制の強化		グローバル会議(寮生・下宿生の要望を聞き、検討する会議)を開催	A	2.7	・新金星寮の完成。本当に素晴らしい寮ができた。ここから世界に羽ばたく人材が育成されることを期待している。 ・交野に三箇所下宿がある。地域でも喜ばれている。学園のお陰で交野が発展したとも言える。 ・女子寮を作ることはできないか。下宿生は、下宿から学校まで距離があるのでかわいそう。	寮生・下宿生に対する昼食支援を含め、奨学金制度をさらに拡充。新金星寮を建設し、寮生の生活環境が大いに向上した。学期に1回、寮・下宿それぞれのグローバル会議(寮生・下宿生の要望を聞き、検討する会議)を実施し、Wi-Fi環境の整備をはじめ、寮生活・下宿生活の改善を図った。
	5. SGH事務局体制の整備		事務局体制の整備を検討。次年度に向けて体制作りや人選を行った。	B	2.8		海外とのやりとり等を専門的に扱う窓口として、SGH事務局体制の整備が必要と考え、新年度よりSGHスタッフを採用することになった。

【今後の改善方策】

- ① 各項目について、その到達度をわかりやすくするために、3年先までの数値目標を設定したが、まだまだPDCAサイクル回す上で、具体的な目標設定になっているとは言えない。今後もしっかりと検討を続けたい。
- ② 上記の反省を踏まえ、学校運営におけるPDCAサイクルがきちんと循環して機能していくように評価体制などを確立していく。
- ③ 指導要領の改訂を念頭に置いて、グローバルリーダー育成のための戦略的なカリキュラムの研究と作成をしていく。
- ④ グローバル人材育成プログラムの開発・実践。学校目標と連動したカリキュラム・マネジメントの確立。
- ⑤ 教員の資質向上のため、各種研修を行い、情報を共有していく。
- ⑥ 授業改革の推進。
- ⑦ タブレット使用の推進により、ICT教育の一層の推進を図るとともに、SNS等でのマナーの徹底。
- ⑧ 検定試験の積極的活用、推薦図書への提示や図書館利用の推進を通し、語学・読書教育の充実。
- ⑨ 生徒募集・入試における人材獲得のための施策の充実。
- ⑩ 生徒の安心・安全の更なる向上に取り組む。無事故を達成するため、電車内・通学路の安全・マナーの徹底に取り組む。

【今後の学校運営のあり方】

文科省SGH(スーパーグローバルハイスクール)校として取り組む5年間のうち3年目に入る本年は、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」をさらに推進してまいりたい。同時に、その主体者たる生徒自身の限らない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育てていく。以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、各目標を達成していく。

2016年度 学校教育目標  
関西創価高等学校(評価は4段階で行う)

4: 充分達成できた  
3: 少しは進んだ  
2: 現状維持だった  
1: 後退した

- ◇基本方針  
〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践  
〔Ⅱ〕「可能性」と「心」の育成の推進

◇教育活動・実践における重点項目

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために					
	1. スーパーグローバルハイスクールの研究開発構想の着実な実施。	3.6	29	22	0	0
	2. アクティブラーニングが授業の中に取り込まれている授業数の推進。	3.3	17	33	1	0
	3. 探究型総合学習GRITがよかったと述べる生徒の数の増進。	3.5	28	19	4	0
	4. 大学との連携の強化。学校教育に参画した大学教員、ならびに大学院生の数の増加。	3.4	25	22	4	0
	5. 英語力の強化と英検受験の成績向上。	3.6	31	19	1	0
	6. 環境教育(アースカム・虫などの保存運動)の充実と発展。	2.9	10	24	17	0
	7. 学識者を招き、講演会を実施(Global Citizenship Seminar)。事前学習を含めた充実度の増進。	3.4	24	24	3	0
	8. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現。	3.6	32	19	0	0
	9. 主権者教育の推進。	3	9	31	11	0
〔Ⅱ〕	「可能性」の育成のために					
	1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。	2.6	3	25	23	0
	2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進。	2.9	7	33	11	0
	3. SGH国内、国外フィールドワークを目指す生徒数の増進。	3.1	14	28	9	0
	4. スタディサポートテストを活用し、成績アップさせた生徒の増進。	2.6	4	25	21	1
	5. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進。	2.8	3	35	13	0
〔Ⅲ〕	「心」の育成のために					
	1. 創立精神学習の深化と実践					
	a. 三大大行事・創大研修・教育研修旅行・青春対話(総合学習GRIT)を充実、開催。	3.2	20	23	7	1
	b. 教員自身が創立精神を学び、体現し、生徒の創立精神を薫発するための研修を開催。	2.9	10	24	17	0
	c. 創立者指導等アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催。	3.1	19	20	12	0
	2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養					
	a. 「多様性」の尊重を培い、「人権教育」「平和教育」を推進するプログラムの実施。	3.1	14	29	7	1
	b. 「いじめ防止プログラム」の研究と実践。対応力の強化のための研修開催	2.8	11	21	19	0
	c. 男女の特性に応じた、きめ細やかな指導の実施(特に女子教育)男女別集会の開催。	2.8	7	27	17	0
	d. 「天の川ホテル復活プロジェクト」を通しての地域貢献と自然との共生を学習を実施。	2.5	6	14	29	2

◇教育力向上のための取り組み

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進。	3	12	26	13	0
〔Ⅱ〕	高大連携しての教員研修の強化。	2.8	11	23	15	2
〔Ⅲ〕	生徒対応や教育力向上のための時間を確保するための校務改革を検討。	2.6	7	16	27	1
〔Ⅳ〕	生徒による授業評価の実施。	2.9	13	21	17	0
〔Ⅴ〕	保護者と協力してのトータルした人材育成。					
	a. 保護者への進路ガイダンス、思春期の関わり方などのセミナーの実施。 b. 保護者との連携強化(家庭訪問の励行、HP保護者用バナーの充実)満足度の増進。	2.7	8	22	21	0

◇安全・安心／施設・設備の充実について

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)を検討課題とする事故防止委員会の開催。	2.8	7	26	18	0
〔Ⅱ〕	交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化 委員会の開催。	2.7	7	23	21	0
〔Ⅲ〕	防災教育の推進と震災対応力の強化 防災訓練の開催。	2.8	9	22	20	0
〔Ⅳ〕	障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善を検討する委員会の開催。	2.5	3	20	28	0
〔Ⅴ〕	生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化。					
	a. 教員間の情報共有(ケースコンファランス等)の開催。 b. ケーススタディの適切な開催。	2.8	8	25	17	1

◇その他

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)	3.3	18	28	5	0
〔Ⅱ〕	広報活動および受験啓蒙の強化	2.7	7	22	22	0
〔Ⅲ〕	学校評価の充実	2.8	10	21	20	0
〔Ⅳ〕	寮・下宿生のサポート体制の強化	2.7	8	21	21	1
〔Ⅴ〕	SGH事務局体制の整備	2.8	9	25	17	0

## ◇基本方針

- [Ⅰ]「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践
- [Ⅱ]「可能性」と「心」の育成の推進

※以降の【 】内は該当する項目の達成度を%で示し、3年先までの目標を挙げた。※2年目

## ◇教育活動・実践における重点項目

## [Ⅰ]「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. スーパーグローバルハイスクールの研究開発構想の着実な実施。【100,100,100】
2. アクティブラーニングが授業の中に取り込まれている授業数の推進。【60,85,100】
3. 探究型総合学習GRITがよかったと述べる生徒の数の増進。【60,70,80】
4. 大学との連携の強化。学校教育に参画した大学教員、ならびに大学院生の数の増加。【40, 60, 80】
5. 英語力の強化と英検受検の成績向上。準1級【2,4,6】2級【50,60,65】
6. 環境教育(アスカム・蛍などの保存運動)の充実と発展。充実度【60,70,80】
7. 学識者を招き、講演会を実施(Global Citizenship Seminar)。開催回数、事前学習を含めた充実度の増進。【3,3, 4】【60, 70, 80】
8. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現。【60,70,80】
9. 主権者教育の推進。【2,3,4】

※以降の【 】内は該当する項目を達成している生徒の数を%で示し、3年先までの目標を挙げた。

## [Ⅱ]「可能性」の育成のために

1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。【60,70,80】
2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進。【50,60,70】
3. SGH国内、国外フィールドワークを目指す生徒数の増進。【40,50,60】
4. スタディサプリを活用し、成績アップさせた生徒の増進。【50,60,70】
5. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進。【40,50,60】
6. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進。【50,60,70】

※以下は開催回数を目標値として【 】内に挙げた。

## [Ⅲ]「心」の育成のために

1. 創立精神学習の深化と実践
  - a. 三大行事・創大研修・教育研修旅行・青春対話(総合学習GRIT)を充実し、開催していく。【10,10,10】
  - b. 教員自身が創立精神を学び、体現し、生徒の創立精神を薫発するための研修を開催。【3,3,3】
  - c. 創立者指導等アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催【10,10,10】
2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養
  - a. 「多様性」の尊重を培い、「人権教育」「平和教育」を推進するプログラムjの実施。【3,3,3】
  - b. 「いじめ防止プログラム」の研究と実践。対応力の強化のための研修開催【3,3,3】
  - c. 男女の特性に応じた、きめ細やかな指導の実施(特に女子教育)男女別集会の開催。準備も含めた会合の回数。【3,3,3】
  - d. 「天の川ホテル復活プロジェクト」を通しての地域貢献と自然との共生を学習する回数。【3,3,3】

## ◇教育力向上のための取り組み

- [Ⅰ]授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進する回数。【3,3,3】
- [Ⅱ]高大連携しての教員研修の強化および研修の回数。【3,3,3】
- [Ⅲ]生徒対応や教育力向上のための時間を確保するための校務改革検討回数。【3,3,3】
- [Ⅳ]生徒による授業評価の実施。【3,3,3】
- [Ⅴ]保護者と協力してのトータルした人材育成
  - a. 保護者への進路ガイダンス、思春期の関わり方などのセミナーの実施回数。【2,2,2】
  - b. 保護者との連携強化(家庭訪問の励行、HP保護者用バナーの充実)満足度の増進。【60, 70, 80】※この項目は%

## ◇安全・安心／施設・設備の充実について

- [Ⅰ]事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)を検討課題とする事故防止委員会の開催回数。【2,2,2】
- [Ⅱ]交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化 委員会の開催回数。【10,10,10】
- [Ⅲ]防災教育の推進と震災対応力の強化 防災訓練の開催回数。【2,2,2】
- [Ⅳ]障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善を検討する委員会の開催回数。【2,2,2】
- [Ⅴ]生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化
  - a. 教員間の情報共有(ケースコンファランス等)の開催回数。【4,4,4】
  - b. ケーススタディの適切な開催。【100,100,100】※この項目は%

## ◇その他

- [Ⅰ]特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)
- [Ⅱ]広報活動および受験啓蒙の強化
- [Ⅲ]学校評価の充実
- [Ⅳ]寮・下宿生のサポート体制の強化
- [Ⅴ]SGH事務局体制の整備